

2025年群馬県尾瀬保全のための 協力金に関するアンケート調査結果

2026年3月

群馬県自然環境課

業務受託：公益財団法人尾瀬保護財団

アンケート調査概要

1. 調査目的

尾瀬入域協力金（アンケートでは、尾瀬保全のための協力金と呼称）に対する尾瀬来訪者の意識等を把握し、制度設計の基礎資料とすることを目的にアンケート調査を実施した。

2. 実施概要

- (1) 調査対象：R 7 年度尾瀬国立公園群馬県域へ下山者（18歳以上）
- (2) 調査方法：鳩待峠・大清水において調査票入り封筒を直接手渡し
- (3) 回答方法：① 郵送回収方式
② 調査票に記載のQRコードからGoogleフォーム経由で回答
- (4) 調査期間：8月16～17日（土日）、8月30～31日（土日）の計4日間
- (5) 調査時間：概ね10:30～14:30

3. 回収結果

- ① 郵送回収方式：294件 ② Googleフォーム：255件 計549件
※配布部数：1,449部、回答率：約37.9%

4. 有効回答数

計549件を有効回答として分析

年代・居住地

- ✓ 年代は、「50代（38.4%）」が最も多く、次いで「40代（18.8%）」「60代（18.8%）」となった。
- ✓ 居住地は、「東京都（25.1%）」が最も多く、次いで「埼玉県（16.2%）」「神奈川県（15.5%）」となった。
- ✓ 関東地方の居住者が全体の84.0%を占め、そのうち群馬県は10.7%であった。

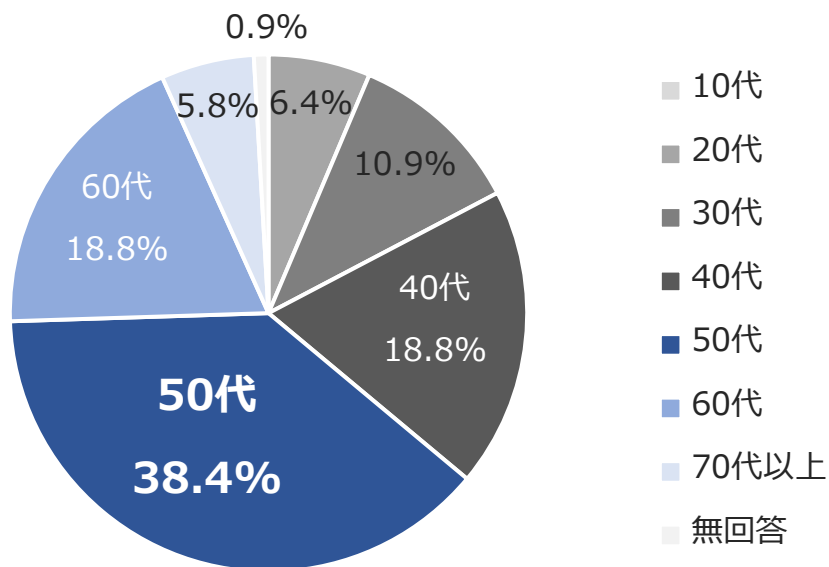


図1. 年代 (N=549)

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。以下同様。

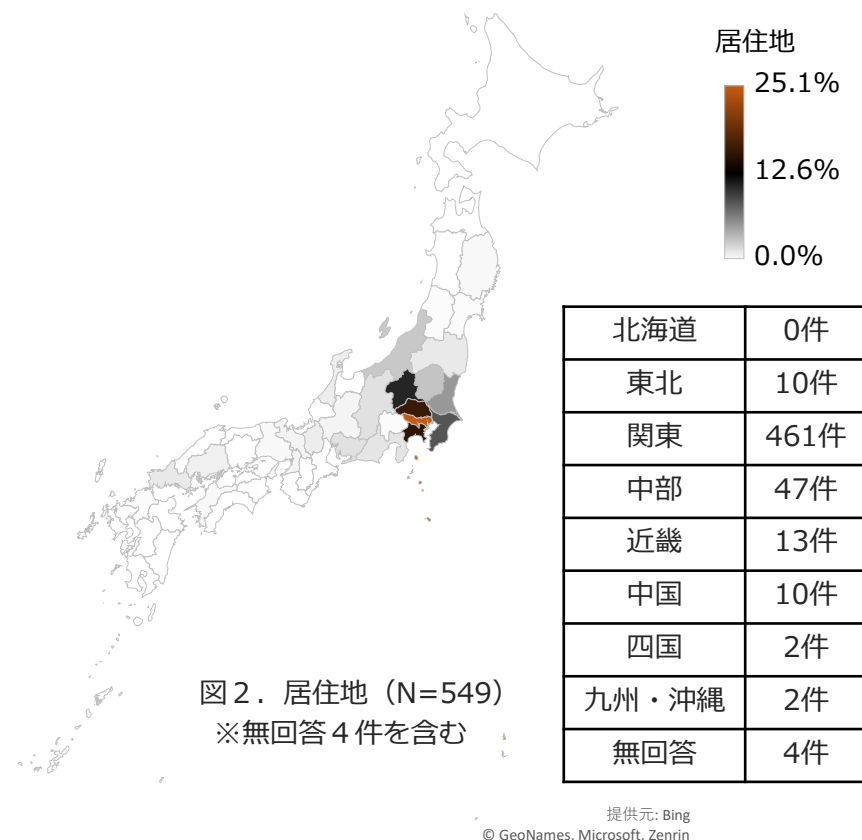


図2. 居住地 (N=549)
※無回答4件を含む

提供元: Bing
© GeoNames, Microsoft, Zenrin

尾瀬の来訪経験・登山歴

- ✓ 尾瀬の来訪経験は、「初めて（33.9%）」が最も多く、来訪経験2回目以上（＝リピーター）は65.0%であった。
- ✓ 登山歴は、「5-10年未満（20.4%）」が多く、次いで「10-20年未満（20.2%）」となった。「0-1年未満」は11.8%であり、登山歴が短い人は少なかった。

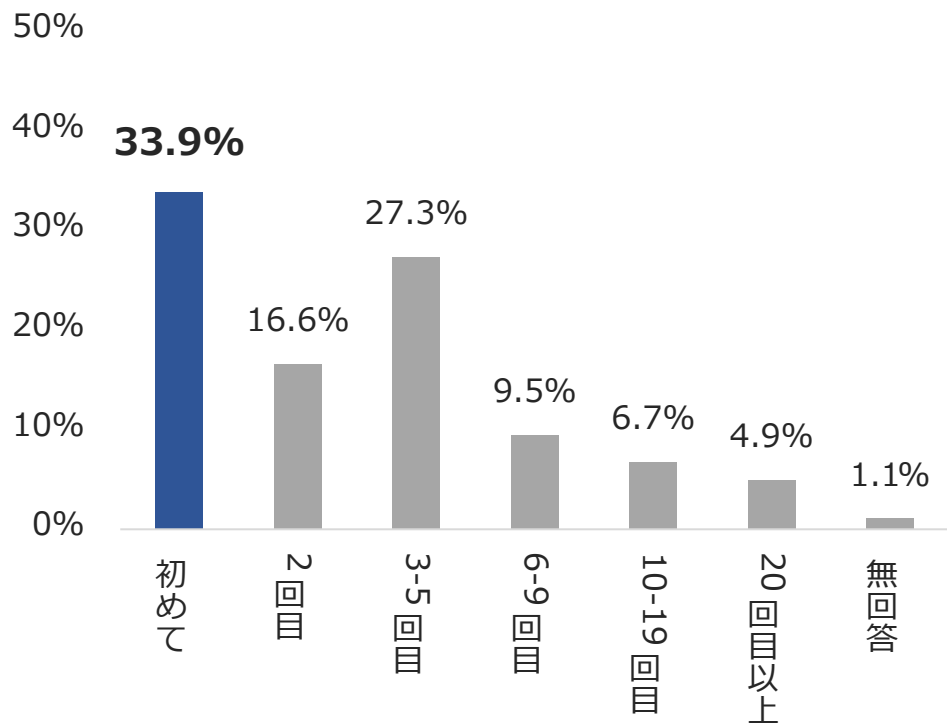


図3. 来訪経験 (N=549)

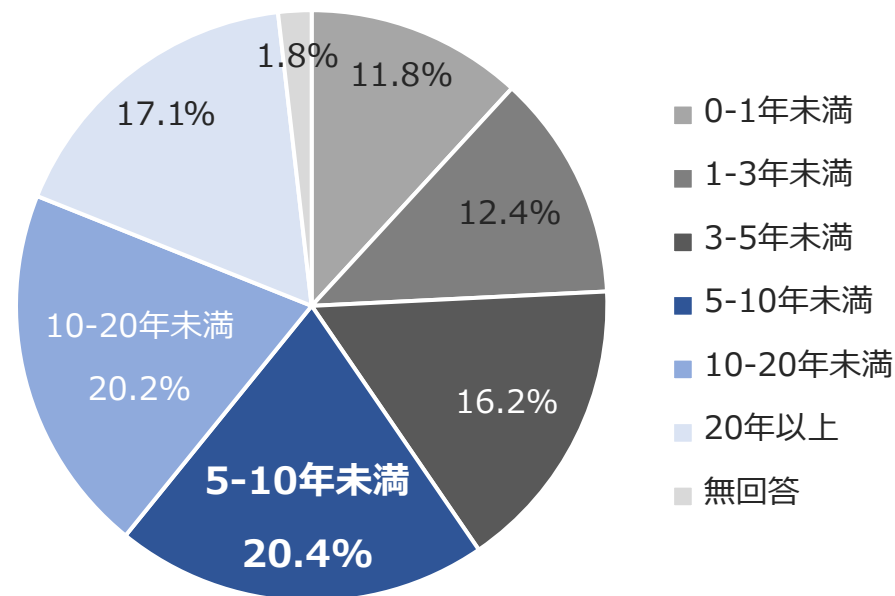


図4. 登山歴 (N=549)

尾瀬リピーターの2024年尾瀬訪問回数

- ✓ 来訪経験2回目以上（=リピーター）の2024年（調査前年）尾瀬訪問回数は平均1.0回であり、「0回（46.3%）」が最も多く、次いで1回が29.5%、2回以上は計21.2%であった。

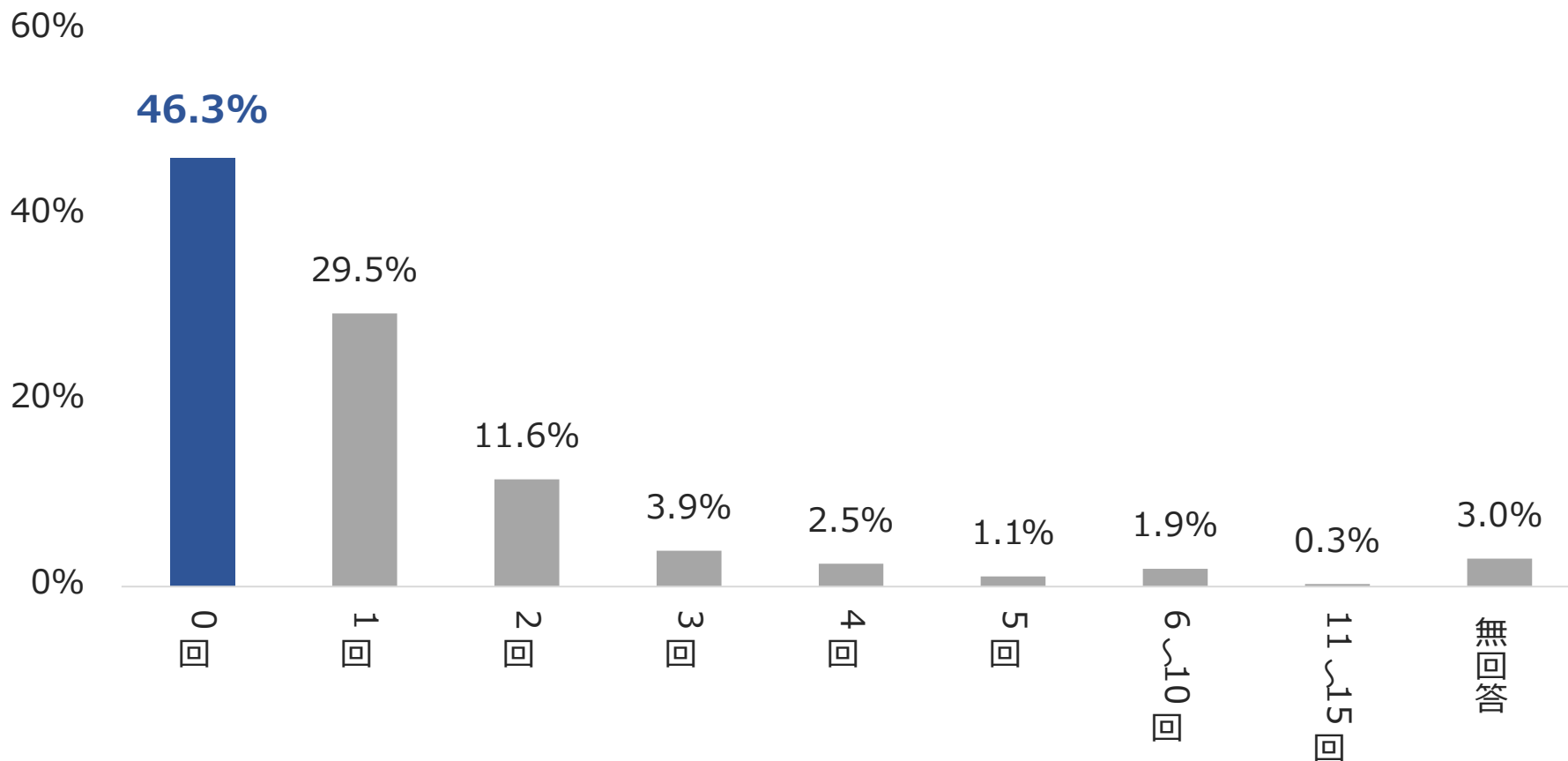


図5. 2024年尾瀬訪問回数（N=363）
※2025年の訪問が「初めて」の186件を除く。

グループ人数・小学生以下の人数

- ✓ グループ人数は、「2人（47.9%）」が最も多く、次いで「1人（20.6%）」「3人（12.6%）」となった。
- ✓ 小学生以下の人数は、「0人（95.6%）」が最も多かった。

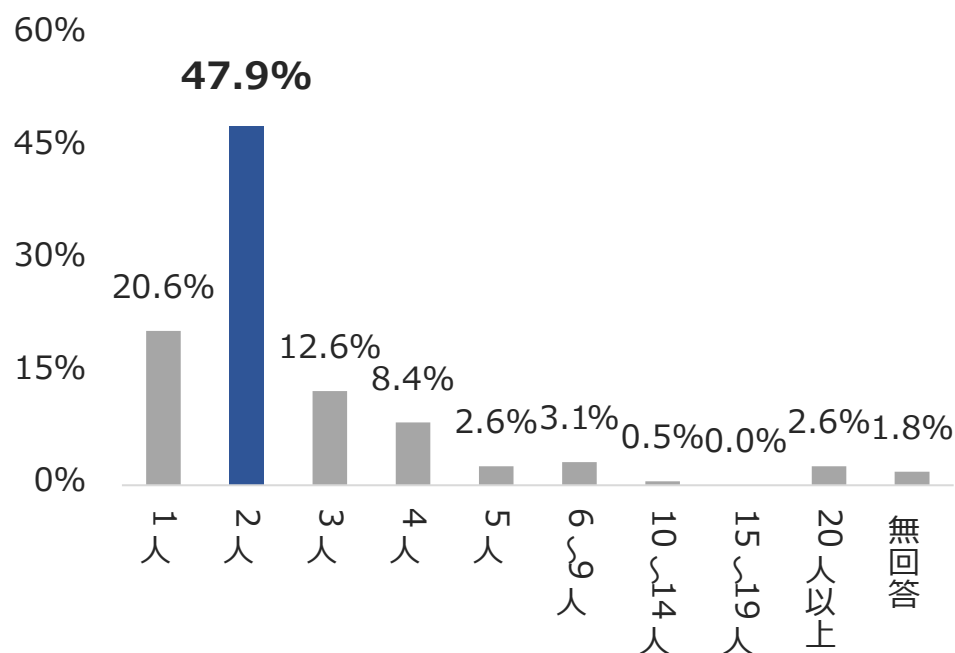


図6. グループ人数 (N=549)

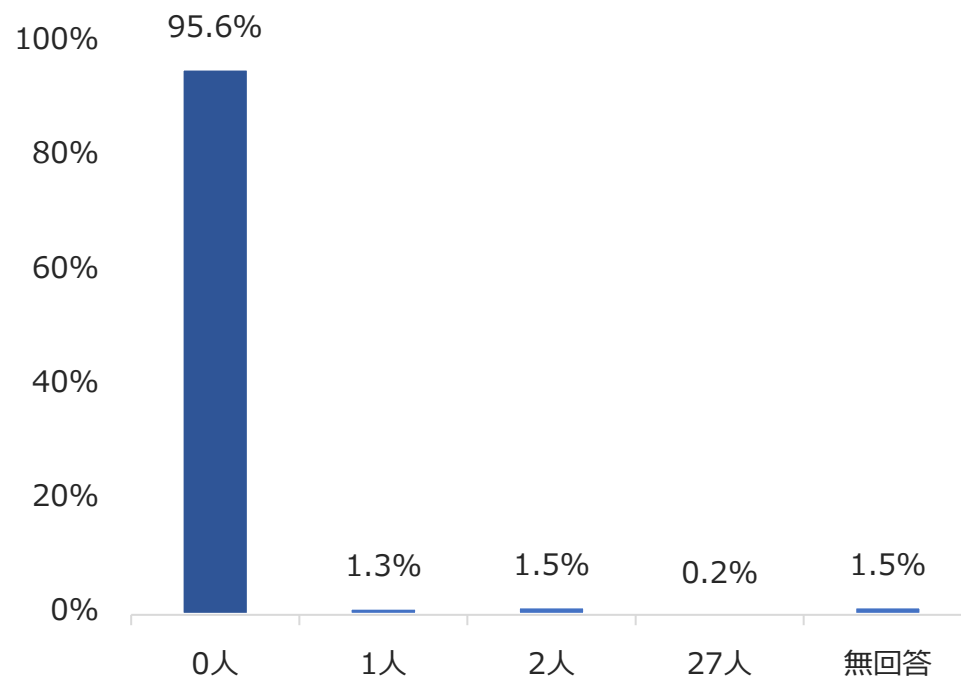


図7. 小学生以下の人数 (N=549)

満足度・旅程

- ✓ 満足度は、「大変満足」が「滞在全体」では49.2%、「自然景観」では60.5%であった。一方で、「木道・登山道の整備」は17.3%と低かった。
- ✓ 旅程は、「尾瀬内宿泊」が57.6%で最も多く、次いで「日帰り」が34.1%であった。

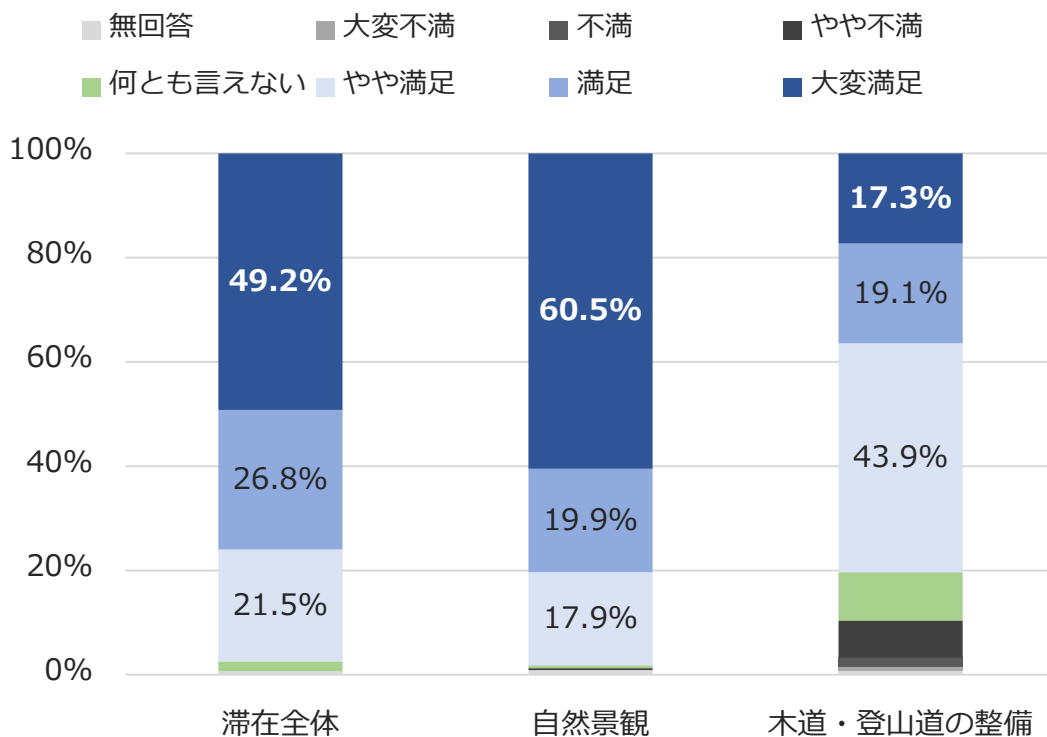


図8. 満足度 (N=549)

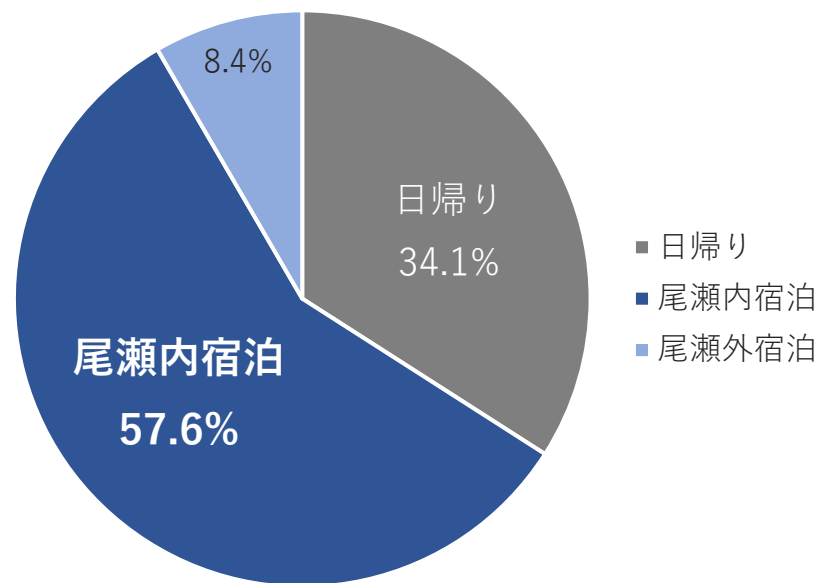


図9. 宿泊の有無 (N=549)

尾瀬保全のための協力金導入への賛否

- ✓ 尾瀬保全のための協力金導入への賛否は、「賛成（95.4%）」と高かった。
- ✓ 旅程別では、賛成の割合は宿泊が日帰りより僅かに高く、反対の割合は、日帰り＞尾瀬外宿泊＞尾瀬内宿泊の順に高くなった。

問：仮想的な任意の「尾瀬保全のための協力金」についてうかがいます。

説明：（略）協力金が導入されることで、尾瀬の保全や利用環境整備が進むことが期待されますが、来園者の方は経済的な負担が増えることとなります。このような協力金を導入することに対する賛否と、その理由をお書きください。

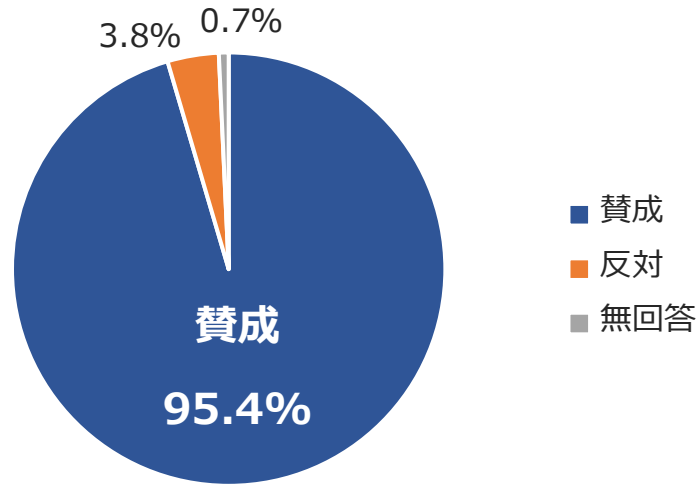


図10. 尾瀬保全のための協力金導入への賛否 (N=549)

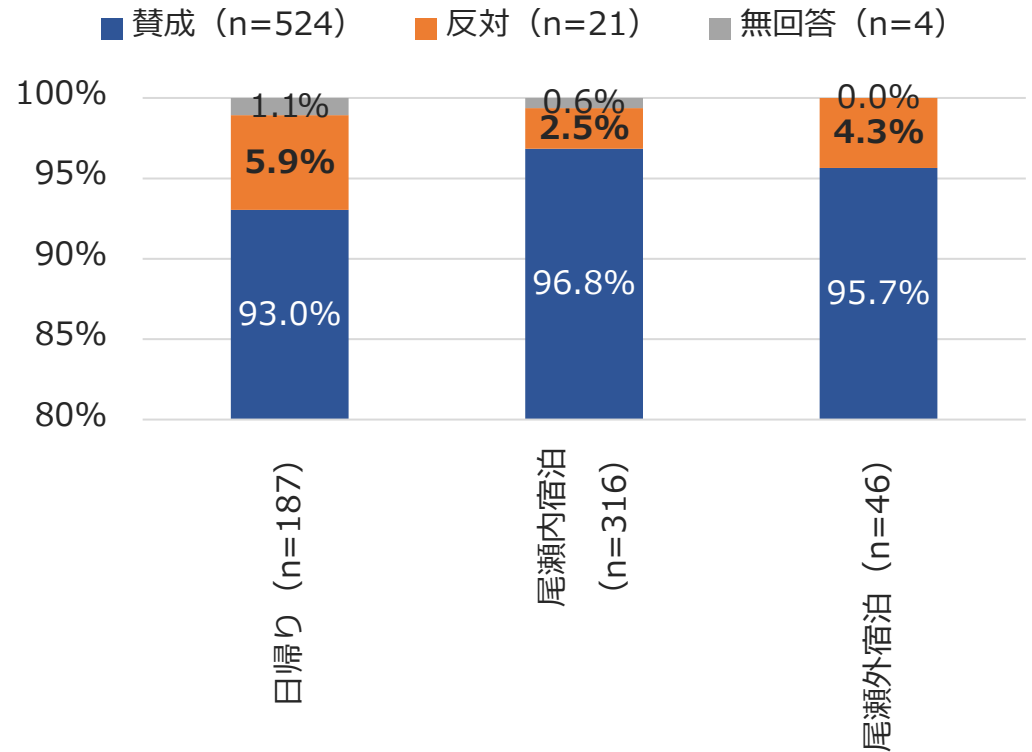


図11. 旅程別の尾瀬保全のための協力金導入への賛否 (N=549)

賛否の理由

賛成 n=524

- ・尾瀬や自然を守るために必要だから（150件）
- ・環境整備にお金がかかるのは当然だから（101件）
- ・利用者／受益者負担の考え方が必要だと思うから（65件）
- ・木道等の環境整備に使って欲しい（34件）
- ・来訪者への意識付けになるから（12件）
- ・ある程度の負担はやむを得ないと思うから（12件）
- ・尾瀬を守って欲しい（11件）
- ・全国的な傾向だから（11件）
- ・金額による（11件）
- ・義務化すべき（9件）
- ・整備への感謝（7件）
- ・群馬県域以外でも取り組むべき（3件）
- ・尾瀬のために使われるのであれば（2件）
- ・オーバーツーリズム対策にもなるから（2件）
- ・その他（18件）
- ・無回答（76件）

反対 n=21

- ・任意の制度には反対である（4件）
- ・すでに高いバス代を支払っている（4件）
- ・行きにくくなる、来訪者の減少に繋がる（3件）
- ・国、地方自治体が解決すべきことで利用者負担はおかしい（2件）※
- ・群馬県域以外でも取り組むべき（1件）※
- ・必要性は理解するが反対（1件）
- ・協力金制度には限界がある（1件）
- ・利用者に負担を求めてまで整備しなくてよい（1件）
- ・民間資本導入で賄うべき（1件）
- ・尾瀬にそこまでの価値はない（1件）
- ・無回答（3件）

※回答に複数の要素を含むものが1件あり、※を付した回答にそれぞれに分けて記載した。

尾瀬保全のための協力金の支払意思額曲線

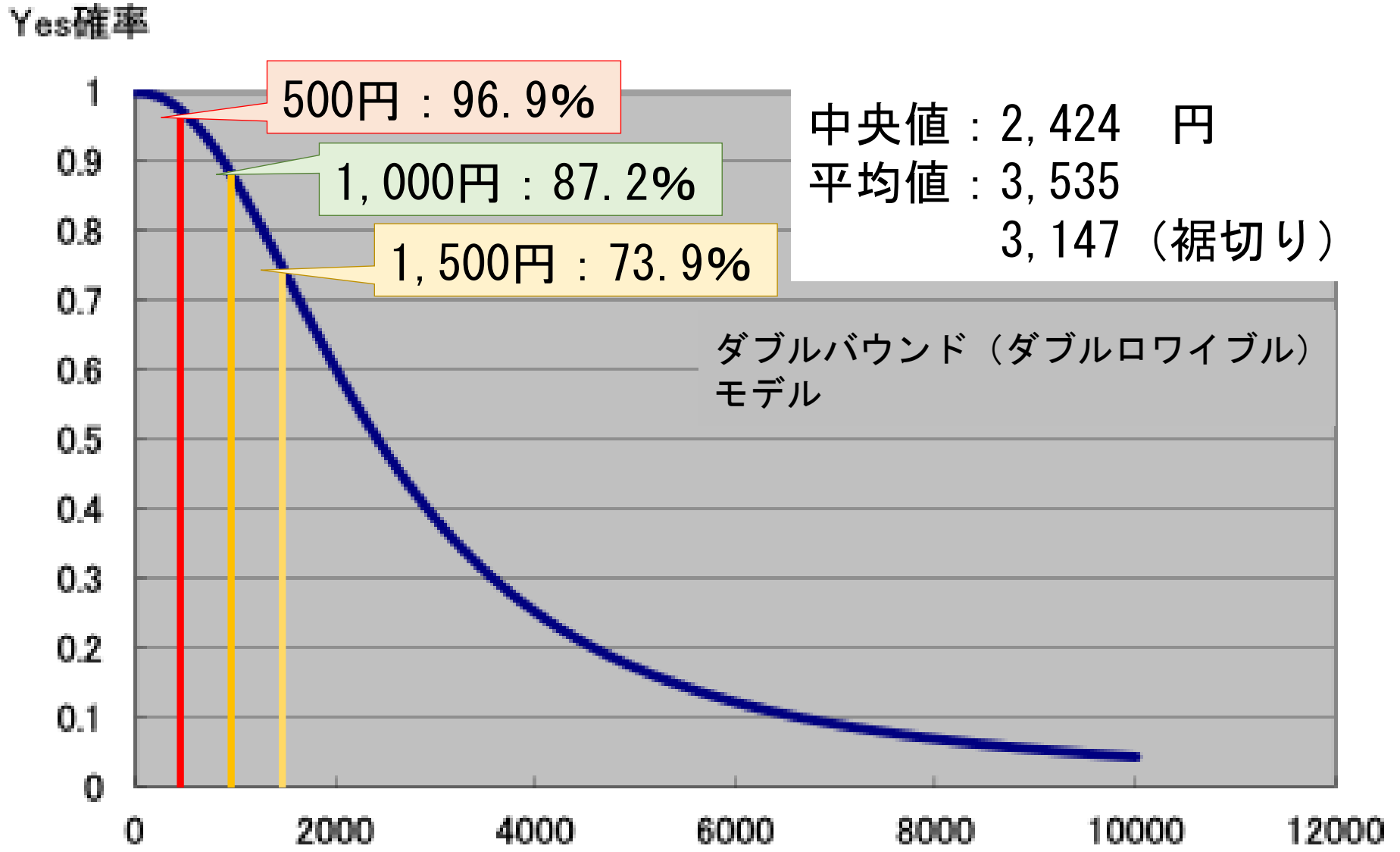


図12. 支払意思額曲線 (WTP : Willingness to Pay) (N=540)

希望する使い道

✓ 希望する使い道は、「木道の補修（軽微な修繕）（66.7%）」などの歩道維持管理と、「自然景観の保全（60.3%）」が高く過半数を占め、**具体的な自然保全活動（※）**に使われることが期待されていた。

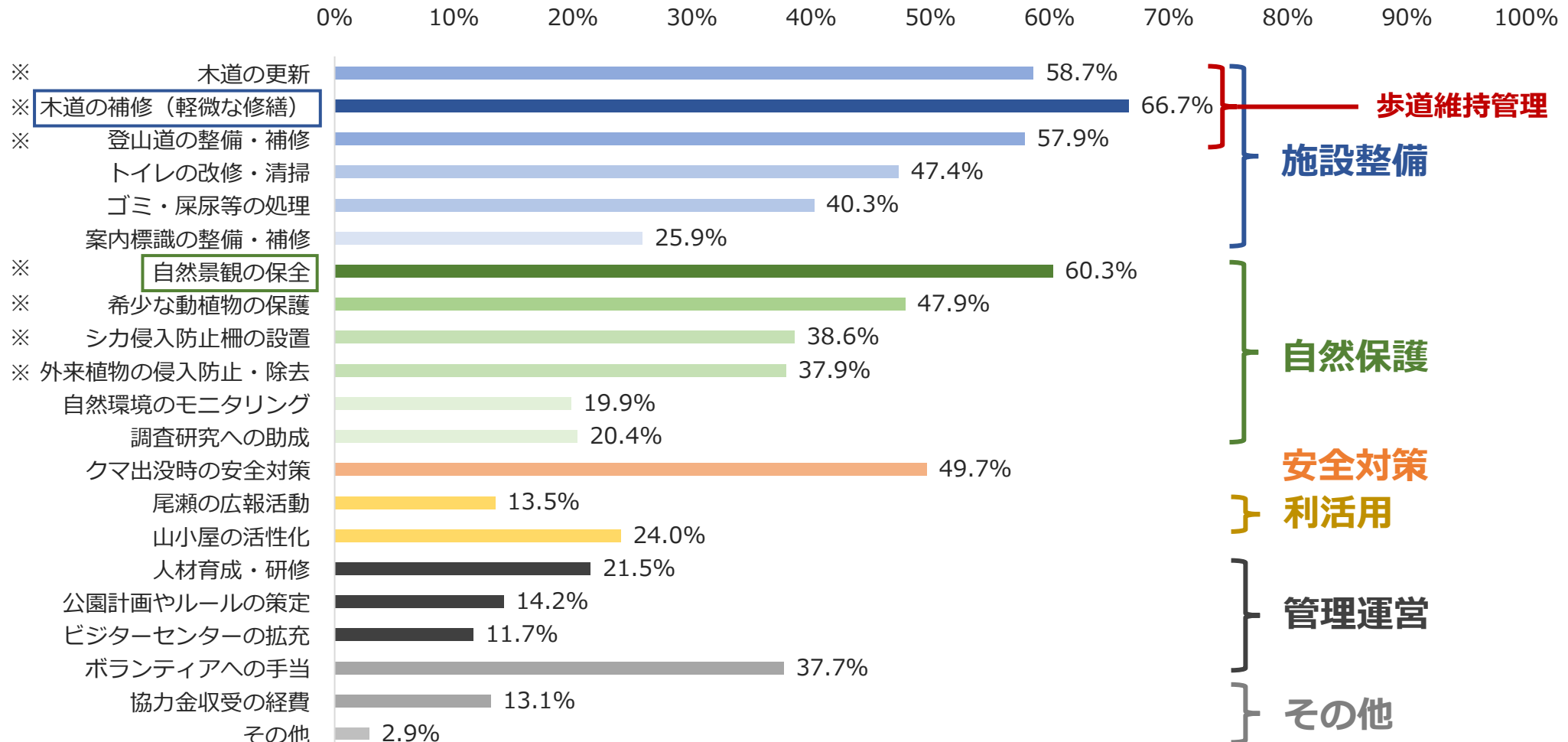


図13. 希望する使い道 (N=549, 複数回答)

希望する集め方、仕組み

- ✓ 希望する集め方、仕組みは、「可能な限り多くの人から集める（55.4%）」に過半数の希望が寄せられたが、それ以外は、特定の手法が希望されず（「キャッシュレス決済で支払う（47.7%）」、「現金で支払う（29.7%）」）、また、相反する希望が拮抗する例もあった（「シャトルバス代等に上乗せする（38.6%）」と「他の料金に上乗せしないで単独で集める（30.1%）」）。

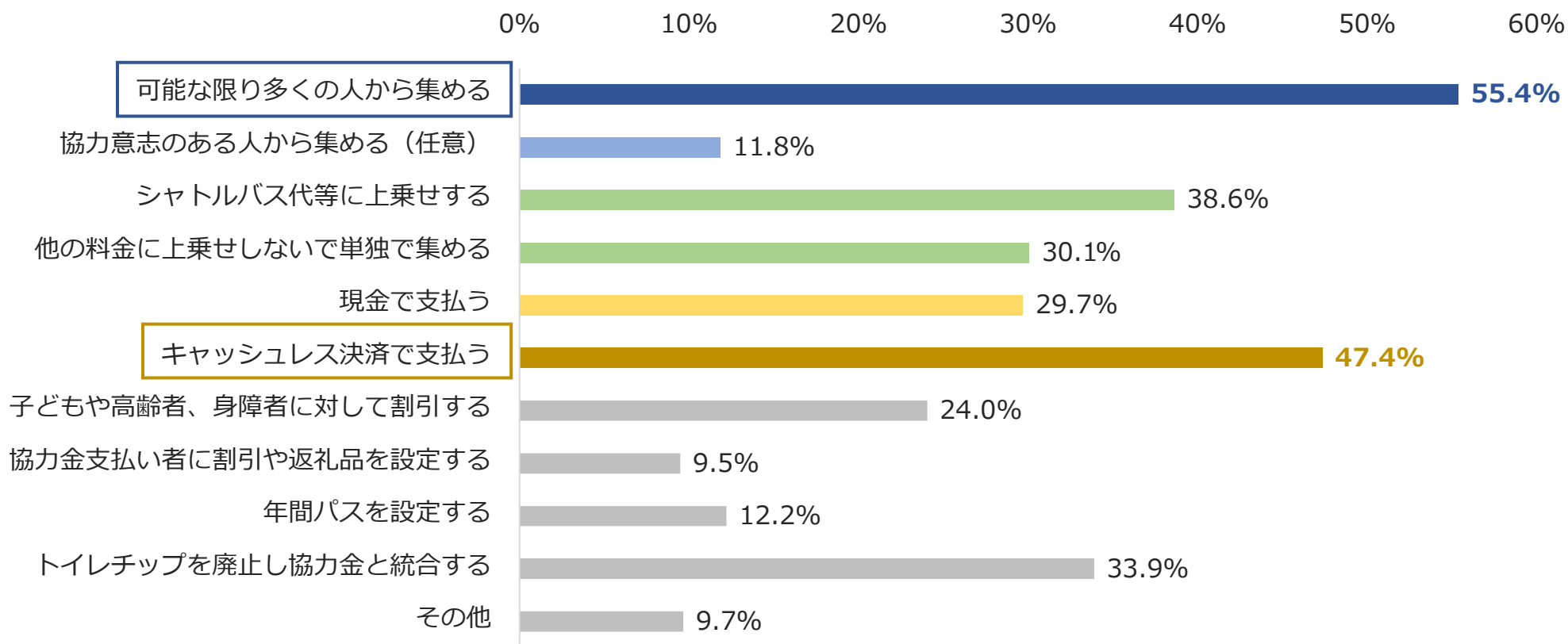


図14. 希望する集め方、仕組み（N=549,複数回答）

協力金が始まった場合の影響

- ✓ 協力金が始まった場合の影響は、「特に変わらない（85.2%）」が最も多く、「尾瀬には訪問しない（0.4%）」、「尾瀬への訪問頻度が減る（6.7%）」、「協力金分、飲食やお土産代を節約する（6.4%）」といった**負の影響も僅かながら想定された。**

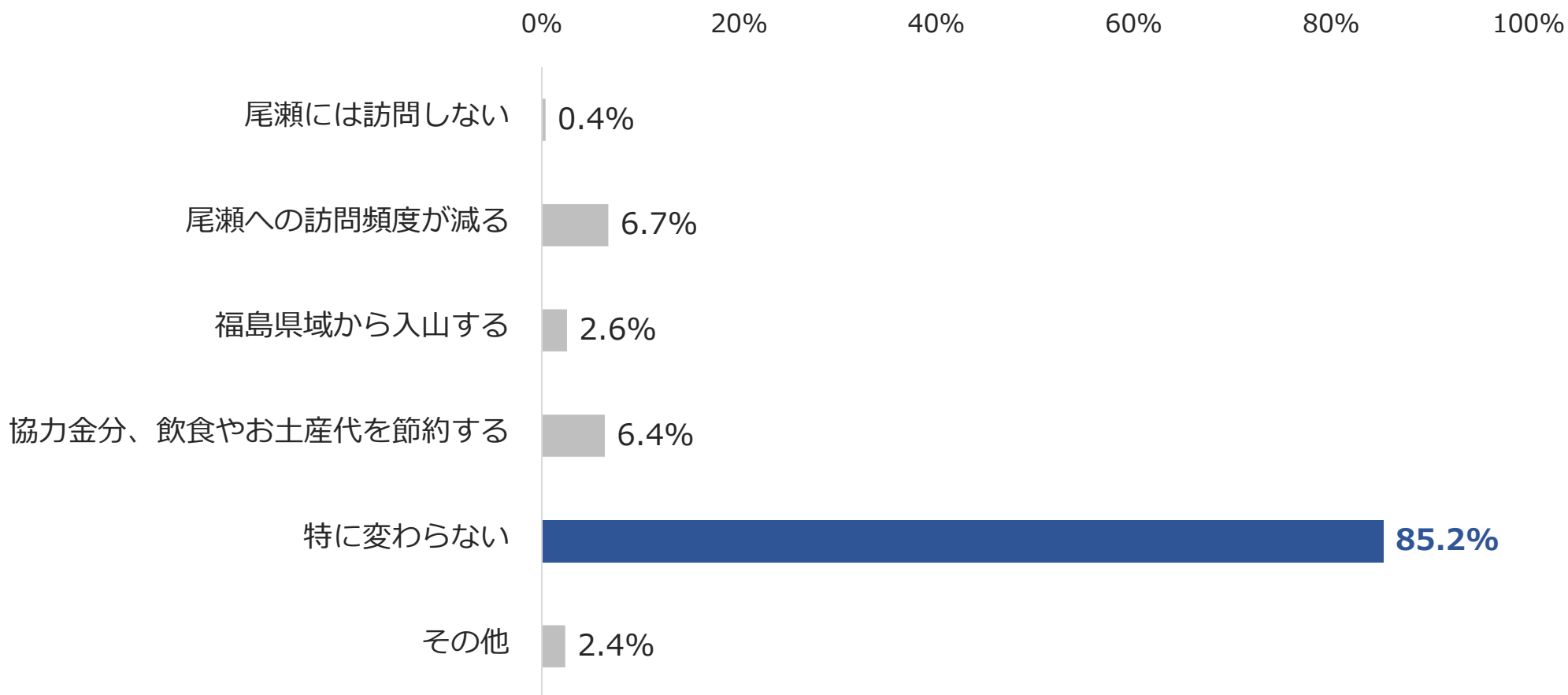


図15. 協力金が始まった場合の影響 (N=549,複数回答)